



みくにだより

「ミュージカルを観に行って」

園長 細井 典子

「芸術の秋」11月のある日曜日、私は柏市の児童センターミュージカルを観に行ってきました。第17回目の演目は「ありすとアリスの物語」。主人公男の子の「ありす」と皆さんご存知の「不思議の国のアリス」の物語に出てくる白うさぎ、白バラトランプ平等々が出てくる現代風にアレンジしたお話で、あっという間の2時間でした。今回はある卒業生のお母様からのお誘いでした。なつかしい卒業生が大勢出演するだけでなく、演出・監督が卒業生のお母様。また衣装や大道具を作る裏方の仕事としていたのも顔見知りの方ばかり。出演した小学生の皆さんは放課後、児童センターに集まってこの日の為に練習を重ねたそうです。劇が始まると場内は、シーンと静まり返りました。長いセリフを覚えて表情豊かに演じる姿、伸び伸びと歌いながら踊る躍動感！そして50人以上の出演者との団結力！大きな拍手をしながら私はふと気づいたのです。この出演者の中の「みくに学園」の卒業生についていえば、その原点は「クリスマス会」のあの発表になるのではないかしらと。年少組は遊戯、年中組は繰り返しのセリフのある劇。年長組は大作品に挑戦、長めのセリフと歌と演技。最初は恥ずかしい気持ちでいっぱいだった心を落ち着かせ、何度も練習することで自信をつけていきます。本番は自信を持って楽しい気持ちで演技する、劇中の人物になりきる、そんな姿が見られたら素晴らしいと思います。

さてミュージカルの話に戻りますが、私にとってひとり気になる子が出演したいました。中学生になったりゅう君です。りゅう君は小学生の頃毎年欠かさず、夏休み最後に行われる『同窓会』に来てくれていたのです。「ぼくはミュージカルをやっています。楽しいから今度見に来てください」私はその時、りゅう君が楽しいと考えているミュージカルってどんなミュージカルだろう…？機会があったら見てみたいなあと思っていました。その願いがかなって、中学生になったりゅう君の演技する姿を見ることができました。まだミュージカルが好きだったんだ、うれしいな。私が考えていた通り、りゅう君には、好きなことに会ってそれをやり続ける忍耐力や一人でも頑張ることができる孤独に立ち向かう姿を感じました。その力強さを演技の中で『表現』していたので会場の皆さんからたくさんの拍手をもらったのだと思います。どんなことでもいいのです。何か一つ好きなことを見つけて続けてみる。このことが成長につながるのだと教えてもらった気がしました。帰る時りゅう君のお母様に久しぶりに会うことができました。卒業してから8年になります。お母様はずっと陰でりゅう君を支え続けてきたのです。昔と同じ笑顔のお母様に「りゅう君すごい拍手だったね。成長した姿が見られてうれしいわ」と伝えるのがやっとなら言葉になりませんでした。今度行われるクリスマス会が皆さんの成長の良いステップとなりますように願っています。

《そのキーホルダーは必要ですか？》

2学期になり、だんだん友だち関係が深まってきました。このことは嬉しい出来事なのですが物の豊かな時代です。更に友だちと仲良くなろうとして、一部で物のやりとりがみられるようになってしまいました。また、魅力的なキーホルダーは他の人の物でも、つい触れたくなくなってしまいました。そこで、お願いなのですが、お子様の持ち物について今一度見直していただきたいです。具体的には、名札に貼ってあるシール、カバンについているキーホルダー、スモックのポケットの中の袋入りティッシュ、女の子の髪留め等々です。

お子様との話し合いにより、大切なものはご自宅で管理し必要のないものは持ってこないようにして下さい。